

松本慎一 まつもと けんいち 評論家、社会運動家。明治二十四年十一月八日愛媛縣生まれ、昭和二十二年十一月二十六日没（一九〇一―四七）。第一高等學校を経て、大正十四年東京帝國大學法學部政治學科卒。三省堂出版部勤務。のち日本共産黨に入黨し、昭和六年、九年に檢舉。十年雜誌『國際評論』編輯、また『世界年鑑』編集にも従事。十二年二度に檢舉。戦後は全日本印刷出版労働組合書記長、全日本産業別労働組合共幹事を務めた。ゾルゲ事件の尾崎秀實とは學生時代からの親友。

譯著書に『フランクリン自傳』（譯、昭和十二年七月一日岩波書店『岩波文庫』）、『中華民國二十年史』（橋樑名義、昭和十八年七月二十日岩波書店『岩波新書』）、『西洋の治政―中華民國の歴史』（昭和十八年八月二十日育生社弘道閣『大東亞青年叢書』）、『現代世界史の課題』（昭和二十二年六月五日伊藤書店『人民群書』）、『ジャーナリズム入門』（合著、日本ジャーナリズム連盟編、昭和二十二年一月十五日銀香書房）、『回想の二本清』（合著、谷川徹三編、昭和二十二年一月十五日白文書院）等。

堀江邑一 ほりえ ぢよいち 編 『偉大なる愛情―尾崎秀實・松本慎一の回想』（昭和二十四年九月二十日育生社弘道閣）刊。